

スローフードの全国の皆さんへ

テッラ・マードレ・ジャパン イン 雲仙の大会に、全国各地からご参加頂きまして本当にありがとうございました。

特に東日本大震災や福島原発事故で、未だ復興がままならぬ中ご参加下さいました岩手、宮城、福島、茨城のスローフードの皆様、本当にありがとうございました。

大会の中で皆さんの実情を聞いて、私たちが何も協力できていないことが、申し訳ない気持ちがありました。そんな中で参加下さった皆さんから反対に私たちがとても大きな励みを頂いたものです。本当にありがとうございました。

雲仙の地でのテッラ・マードレの大会も一応、無事に終わることが出来ました。

今回は、特に雲仙市の観光町づくり推進課を事務局として、それにスローフード長崎がリードしていく形で準備をすすめてきました。途中で県のサポート、財政上にもとても恵まれた中でのテッラ・マードレの大会になっていきました。

そんな中でも、西の端、しかもお山の雲仙と雲仙市の中でも、いちばんに交通などが不便なところでの開催、人の集まりをととても難しくしていました。

しかしこの雲仙の裾野には、多くの食の安全を唱えるスローな生産者がいます。またこだわりの加工者や海に生きる漁業者、みんなこの山、雲仙を毎日見て生きています。

そしてこの雲仙をととても誇りにしてきました。

幸いにして、スローフードの運動の中で、注目を浴びた、雲仙こぶ高菜、エタリの塩辛、そして長崎唐人菜、アルカの中で、復活した食材や伝統野菜たち、今やその活動は、地域の活性化に大きく役立ってきています。

その延長にイタリアのテッラ・マードレの国際大会の参加がありました。そこに参加した市長や地元のスローフードの仲間たちのイタリアでの感動が、今回の雲仙でのテッラ・マードレの開催につながっていきました。

スローフードの理念とは、まさにこのテッラ・マードレの活動の中に生まれていくものと実感しました。今回の大会は、震災や原発事故による災害による、失われた伝統文化、失われた味や食、そしてその地域の中で大切に守られていた種などの交流や復活、再現、また失われたものを記録として次の世代に伝えていくなどのスローフードの役割を見出すことが大きな役目だったのですが、スローな小規模生産者の交流にそして農業における生物の多様性、そしてそれを支える、アルカやプレシディオの役目などに焦点を当てました。

とても有意義に討論されていたと思いますし、雲仙の地からのメッセージを発信する事で、これからのジャパンのスローフードの方向がすこしは感じられたのでは？と思っています。またテッラ・マードレのすばらしさ、全国各地に生きる小規模生産者の交流とは、とても素敵なものと感じました。さりげなく守っていく、伝えていく、そしてスローに生きていく、その想いとは、とても共通するところが多いものです。このテッラ・マードレの活動が、スローフードの運動を広めていくにはとても大きなものと感じます。また2年後にどこかで開催されていくことを願っています。本当にありがとうございました。